

# 山口県立図書館所蔵の往来物資料について

## — 目的別と出版地域別の分類整理 —

### Investigation report on “OURAIMONO” documents of Yamaguchi Prefectural Library possession:

A study based on the publication place and the purposeful classification analysis

郡 千寿子\*  
Chizuko KOHRI\*

#### 要 旨

山口県立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要を報告した。和本のみの目録はなく、資料名や出版年代での検索結果に基づき、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。加えて文献調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、11本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、教科科往来、社会科往来、語彙科往来、理数科往来、女子用往来の所蔵が見られず、消息科往来が6本、地理科往来が1本、歴史科往来が1本、産業科往来が3本という結果であった。出版地域別の分類では、江戸が2本、京都が1本、大阪が5本で、不明が3本という結果であった。地理的に近い京都と大坂の出版が合わせて6本と半数以上を占めており、関西圏からの影響が大きかったことが予想される。江戸の出版は2本であるが、不明が3本あり、江戸文化圏からの影響が少なかったとは必ずしも断定できないが、大阪出版が最多の5本というのは注目すべきであろう。すでに公表している島根県立図書館、鳥取県立図書館、米子市立図書館での調査結果との比較検討も行い、山陰地域の偏在状況や格差についてもグラフ化して提示した。

往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、本稿は山口での初めての調査地点である。総数は少ないが、調査の空白地帯であった山陰での調査結果として今後の基盤となり得る一報といえよう。

キーワード：山陰、山口、往来物、言語生活、地域文化、教育背景

#### 1 研究の背景について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究<sup>1)</sup>をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のもので出版された。従来の往来物研究は、教育史資料という側面からなされてきたが、日本社会の近代化や人間文化形成に果たした役割や影響など、多くの未開拓課題が存在し、新たな視点からの活用が期待されてい

る。

しかし、文献資料の基礎的研究をはじめとして、発掘も十分にすすんでいない現状にあり、そうした事情を背景に、東北地域の調査研究<sup>2)</sup>を発端に、東北地域と海域でつながり、近世期に関西とも文化交流など関係が深かったと予測される、北陸地域にも調査対象<sup>3)</sup>を拡げて研究成果を公表してきた。地域間格差や文化伝播事情など研究の進展を目指し、山陰地域の調査<sup>4)</sup>も開始しているが、本稿では山口県立図書館

\*弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

所蔵の資料について報告する。

## 2 調査方法

従来すすめてきた所蔵往来物の調査にならい、原則として、写本は除き、版本に限って成立時期や出版元を確認した。調査対象の資料それぞれについて、目的別と出版地別に分類整理<sup>5)</sup>して、地域ごとの特徴について今後考察検討したいと思うが、写本を除いたのには意味がある。本研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本は、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。

基本的に従来の調査手法を踏襲し、調査対象の往来物資料を厳選し、分類整理を試みた。文献資料の記載内容については、『国書総目録』<sup>6)</sup>および『古典籍総合目録』<sup>7)</sup>と『往来物解題辞典 解題編』<sup>5)</sup>によって確認検討した。

## 3 調査結果

和本のみの目録はなく、資料名や出版年代によって検索し、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。加えて文献調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、11本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、教訓科往来、社会科往来、語彙科往来、理数科往来、女子用往来の所蔵が見られず、消息科往来が6本、地理科往来が1本、歴史科往来が1本、産業科往来が3本という結果であった。

出版地域別の分類では、江戸が2本、京都が1本、大阪が5本で、不明が3本という結果であった。地理的に近い京都と大阪の出版が合わせて6本と半数以上を占めており、関西圏からの影響が大きかったことが予想される。江戸の出版は2本であるが、不明が3本あり、江戸文化圏からの影響が少なかったとは必ずしも断定できないが、大阪出版が最多の5本というのは注目すべきであろう。

すでに公表している島根県立図書館、鳥取県立図書館、米子市立図書館での調査結果との比較検討も行

い、山陰地域の偏在状況や格差についてもグラフ化して提示した。

## 4 目的別分類について

教訓科往来、社会科往来、語彙科、理数科往来、女子用往来の所蔵が見られなかった。

消息科往来に分類した資料が6本で書名のみ紹介すると『弘化新板庭訓往来』(資料番号004081352)、『庭訓往来注抄 嘉永新稿』(資料番号003941978)、『消息往来 御家』(資料番号003942000)、『風月往来 頭書絵抄』(資料番号003940491)、『庭訓往来捷註』(資料番号004081303)、『大全消息往来 増補』(資料番号003940483)であった。

地理科往来は1本で『江戸往来』(資料番号003940509)であった。

歴史科往来は1本で『忠臣往来 南朝太平』(資料番号003941937)であった。

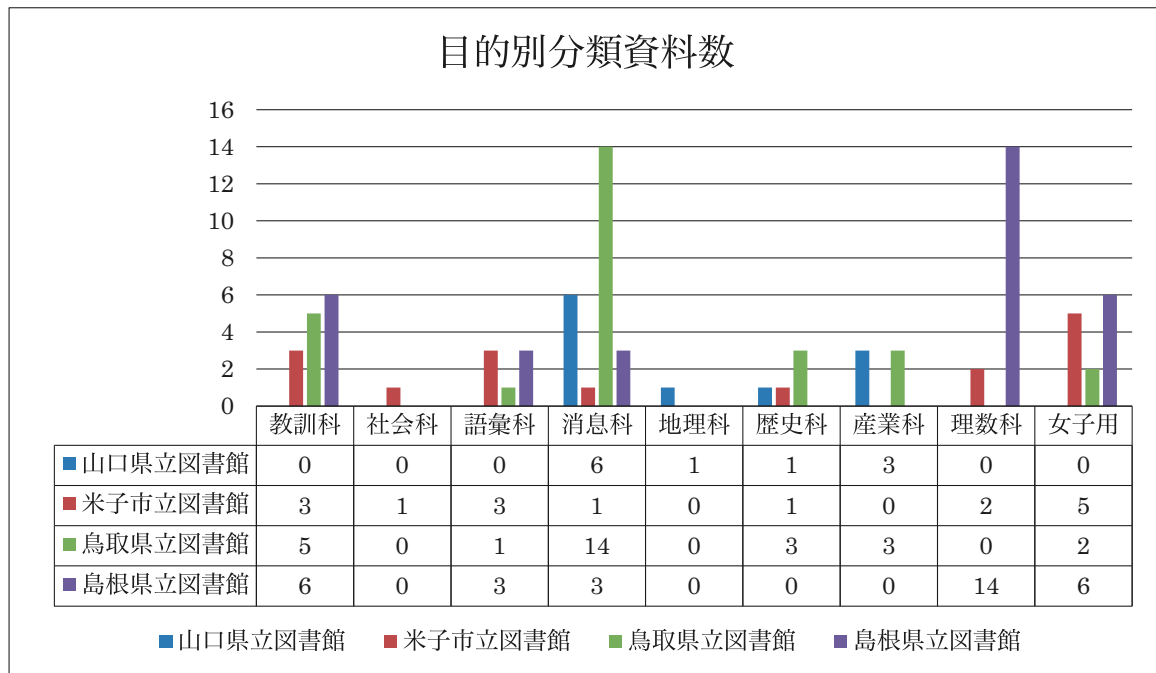
産業科往来は3本で『問屋往来』(資料番号003936218)、『番匠往来 作事注文』(資料番号003941952)、『商売往来絵字引』(資料番号004095733)であった。

目的別分類では、最も多いのが消息科往来資料の6本で約54.5%を占めている。次に多いのは産業科往来の3本で約27.3%となる。地理科往来と歴史科往来が1本ずつで約9.1%という割合となった。山口県立図書館所蔵資料は総数が11本と少ないが、従来の東北地域<sup>2)</sup>や北陸地域の調査結果<sup>3)</sup>によれば『庭訓往来』に代表される消息科往来の占める割合が大きい地域が多いという傾向にあり、目的別に分類した調査結果からみれば、一般的に多いとの印象がある消息科往来が多いことが確認できたといえる。

他方、山陰地域<sup>4)</sup>との調査結果との比較でいえば、島根県立図書館と米子市立図書館も同様に消息科往来が最多であった。鳥取県立図書館所蔵資料では理数科往来が最多であり、それぞれの偏在状況が明確になったといえるであろう。

【グラフ1】は、目的別分類資料数を近隣の鳥取県立図書館、島根県立図書館、米子市立図書館との比較を参考までにグラフ化して提示した。①教訓科往来 ②社会科往来 ③語彙科往来 ④消息科往来 ⑤地理科往来 ⑥歴史科往来 ⑦産業科往来 ⑧理数科往来 ⑨女子用往来 の偏在の状況が知られるであろう。

【グラフ1】



## 5 出版地域別分類について

出版地域別の分類によれば、江戸が2本、京都が1本、大阪が5本で、不明が3本という結果であった。地理的に近い京都と大阪の出版が合わせて6本と半数以上を占めている。関西圏からの影響が大きかったことが予想される。不明が3本、江戸の出版は2本で、江戸文化圏からの影響が必ずしも少なかったとは断定できないが、大阪出版が最多の5本というのは注目すべきである。すでに公表している島根県立図書館、鳥取県立図書館、米子市立図書館での調査結果との比較検討も行い、山陰地域の偏在状況や格差についてもグラフ化して提示した。

江戸の出版である資料は、『番匠往来 作事注文』『庭訓往来捷註』の2本である。

京都の出版である資料は、『弘化新板庭訓往来』の1本である。

大阪の出版である資料は、『江戸往来』『問屋往来』『庭訓往来注抄 嘉永新稿』『忠臣往来 南朝太平』『消息往来 御家』の5本である。

出版地域が特定できず、不明とした資料は、『風月往来 頭書絵抄』『商売往来絵字引』『大全消息往来増補』の3本である。

総数11本の資料のなかで、特定できた資料のなかで大阪が5本と最多で、不明が3本と続いて多く、江戸2本、京都1本という結果であった。大阪と京都を合

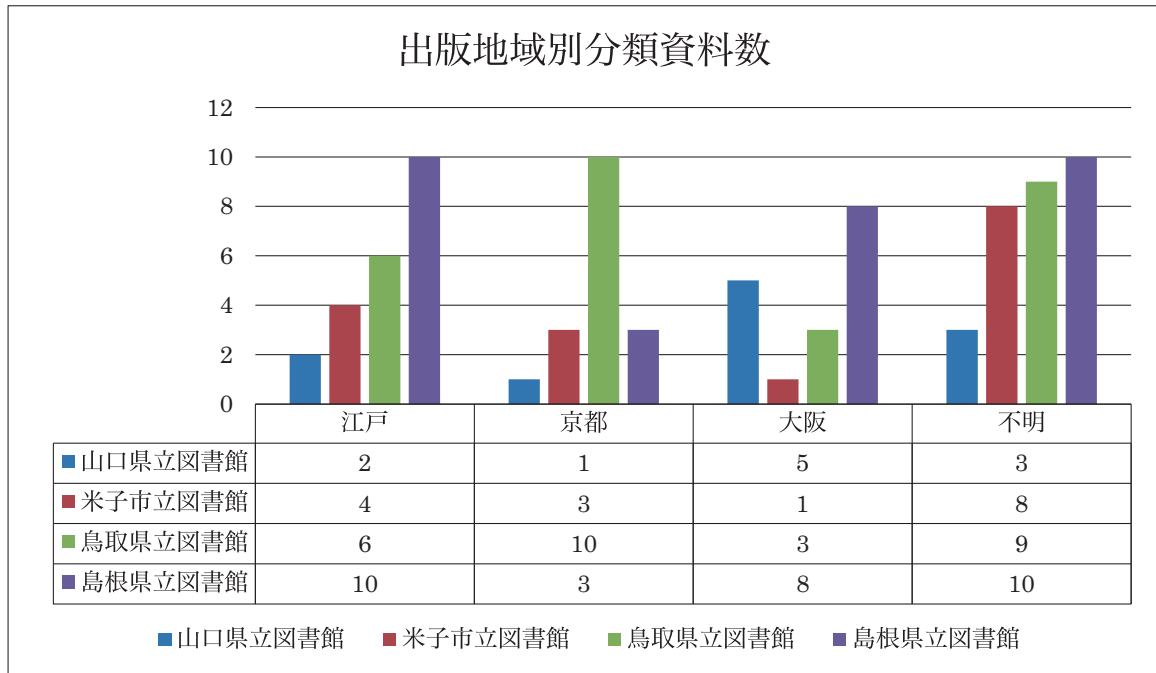
わせた関西圏で6本となり半数以上を占めることになる。江戸と特定される資料が2本と少なく、また総数も少ないため、一概に言えないが、地理的に近い関西からの影響が大きいことが予想されるであろう。

隣県の島根県立図書館所蔵資料の出版地域別分類整理<sup>4)</sup>では、総資料32本のうち、江戸が10本、京都が3本、大阪が8本で不明が11本であった。鳥取県立図書館所蔵資料を出版地域別の分類整理<sup>4)</sup>では、総資料28本のうち、最多は京都の10本であり、次いで江戸の6本、大阪の3本であり、残りの9本が出版地不明であった。米子市立図書館所蔵資料では、江戸が4本、京都が3本、大坂が1本、不明が8本という結果であった。

【グラフ2】は、出版地域別の資料数を近隣の鳥取県立図書館と島根県立図書館、米子市立図書館との比較を参考までにグラフ化して提示したものである。

近世期の後半になると、関西圏だけでなく、江戸での出版が隆盛する。距離的な影響だけでなく、出版文化の拡大や流通といった要因も考えておく必要があるだろう。今回の山口県立図書館における調査では、所蔵資料数が多くないため、傾向をみることには慎重でなければならないが、それぞれの地域特性を考える上では貴重な報告といえよう。

【グラフ2】



## 6 資料紹介

### 6-1 江戸往来

表紙 オレンジ色（地模様有）  
題箋あり「江戸往来 全」  
形状 縦22.0cm 横15.6cm  
全35丁

出版地 大阪  
資料番号 003940509

表紙裏に本来は最終丁にあるべき他本の紹介や版元が示されている。「萬家通用増補文章大全」の紹介文が記されており「版元書林 大阪心齋橋南一丁目 大野木寶文堂」とあり大阪の出版であることが確認できる。1丁表1行目に「江戸往来」と題名があり、2行目より「陽春の慶賀珍重の富貴……」と振り仮名付きで本文が始まっている。35丁裏最終行に「平安 龍章堂 六十三扇書之」と版元も記載がある。裏表紙裏には他書の紹介「教訓絵入 養育往来 御家流全壱冊」「大阪書林 心齋橋通南 秋田屋市兵衛板」とある。

### 6-2 問屋往来

表紙 青灰色  
題箋あり「問屋往来」  
形状 縦25.4cm 横18.0cm  
全44丁

出版地 大阪  
資料番号 003936218

表紙裏に本来は最終丁にあるべき10冊の他書についての紹介がある。「文林節用花海大全 全一冊」「文林節用小本」「商売往来」「唐明詩学○錦大全」「画本故事談 全九冊」「文章指南調法記 三冊」「掌中詩○一冊」「新編書札指南 一冊」「卷○新刻 四書 片仮名附 四冊」「連玉用文華法蔵 一冊」。

1丁1行目に「問屋往来」と題名があり「といやわうらい」と振り仮名がふられている。その下に手書き墨書きで「大正五年五月十日 富田武氏」とあり朱書きの「寄贈印」が確認できる。柱書は丁数の「一」～「四十三」がある。44丁目は最終丁だが柱書がない。44丁表（最終丁）に「彫工 峯鷲」「寛政十三年辛酉正月」と成立年と「浪華書肆」として4人の氏名「大野木市兵衛」「柳原喜兵衛」「梅月市兵衛」「渋川清衛門」が記載されている。44丁裏に「必家撰用 諸通文鑑 全部二冊」とその書名の内容説明が記載されている。裏表紙裏に9冊の書名「四書 三冊」「小学句読 四冊」「信長記拾遺 全部十冊」「字典玉篇集韻 一冊」「掌中○錦 一冊」「女文章都織 一冊」「和漢朗詠集 二冊」「五常辨」「四季用文 御家文通撰 全一冊」という書名紹介と最後に出版地の記載「大坂 大野木秋田屋市兵衛」がある。

## 6-3 弘化新板庭訓往来

表紙 紙 青灰色（地模様あり）  
 題箋あり「新板 庭訓往来 全 平仮名附」  
 形状 縦25.6cm 横18.0cm  
 全 60丁  
 出版地 京都  
 資料番号 004081352

表紙裏の中央に内題として「弘化新板 庭訓往来 全 平仮名附」とあり「皇都書林 合刻発行」とある。1丁1行目に「庭訓往来」と題名があり、2行目から「春婦御悦向……」と本文が振り仮名付きで始まる。柱書は「〇一」～「〇六十」と丁数のみである。裏表紙裏に「片仮名」「十千十二支」が記されている。特に片仮名で合字の「トモ」「トキ」「コト」が示されているが特徴的である。最終部に「弘化三年九月」と出版年があり「京都書林」として3軒の書肆「吉野屋仁兵衛」「柳屋勘兵衛」「山城屋佐兵衛」が列挙されている。

## 6-4 番匠往来 作事註文

表紙 紙 水色（薄い青）  
 題箋あり「作事註文 番匠往来 全」  
 形状 縦25.4cm 横18.0cm  
 全 17丁  
 出版地 江戸  
 資料番号 003941952

表紙裏に内題「作事註文 番匠往来 全」があり「東京書林 千鐘房 宮商閣 合梓」と出版に関する記載がある。なお「番匠往来」には振り仮名が「ばんじやうわうらい」とある。柱書は「番匠往来 一」～「番匠往来 十七」と題名と丁数が記されている。1丁1行目に「番匠往来」と題名があり、2行目から「先梁間何間桁行」と本文が始まるが「まづはりまなんげんけたゆき」と振り仮名がある。

13丁裏の上段には「日本国盡」と「五機内五ヶ国」と「山城 大和 河内 和泉 撰津」と記載が見える。「につほんくにつくし」と振り仮名が確認できる。16丁裏の上段には「篇冠構盡」として「イ にんべん」「木 きへん」と続く。裏表紙裏には「文政十二丑年十月再版」と出版年が記載され、「江戸書林」として「須原屋茂兵衛」「須原屋善五郎」「北條順四郎」の3軒の書肆が並ぶ。

## 6-5 庭訓往来注抄

表紙 紙 茶色（地模様あり）  
 題箋あり「嘉永新稿 庭訓往来注抄 読法附 全」  
 形状 縦25.0cm 横15.8cm  
 全 75丁（序と本文74丁柱書あり）  
 出版地 大坂  
 資料番号 003941978

表紙裏に内題の「庭訓往来注抄 読法附 全」と出版元「浪速書肆 田中宋栄堂梓」とある。最初の1丁表裏は序文であり、本文は2丁目一行に「庭訓往来注抄」と始まる。柱書は「庭注抄 一」～「庭注抄 七十四」とあり、本文は74丁で序文と合わせて全75丁と整理した。裏表紙裏に「嘉永四年辛〇 仲冬 新板」と出版年が確認される。また「三都書肆発行」とあり江戸の書肆が4軒「江戸日本橋 丁目 須原屋茂兵衛」「同二丁目 山城屋佐兵衛」「同芝神明前 岡田屋嘉七」「同浅草茅町二丁目 須原屋伊八」に続き、「京三条通寺町 丸屋善兵衛」「大阪心齋橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門」と計6軒が記されているが、版元の大坂出版と整理した。

## 6-6 商売往来絵字引

表紙 紙 薄い水色（地模様あり）  
 題箋は剥がれて痕跡のみあり  
 形状 縦17.0cm 横11.5cm（小型）  
 全 30丁  
 出版地 不明  
 資料番号 004095733

小型の資料で色刷りの珍しいものである。4丁表一行目に「往来絵字引」と題名があり、2行目から本文がある。

## 6-7 忠臣往来南朝大平

表紙 紙 薄い水色（地模様あり）  
 題箋あり「南朝太平 忠臣往来 全」  
 形状 縦25.4cm 横18.0cm（下部破損あり）  
 全 72丁（序8丁、本文65丁）  
 出版地 大阪  
 資料番号 003941937

序文が8丁あり本文は9丁表から始まる。9丁表一行目に「南朝忠臣往来」と題名がある。上段は絵が描

かれており、下段が本文である。9丁裏の上段は「新田義貞略傳」との説明文が記載されている。柱書は「忠臣往来」と丁数「〇一」～「〇八」(序文)「〇一」～「〇六十五」(本文)

裏表紙裏に「書房」として14軒の書肆が列挙されている。「淡州洲本 久和島屋文蔵」「讃州高松 本屋茂兵衛」「阿州徳島 天満屋武兵衛」「筑前博多 深屋弥助」「京都 銭屋惣四郎」「同 丁子屋庄兵衛」「同 永田調兵衛」「江戸 朝倉久兵衛」「同 須原屋新兵衛」「同 内野屋彌平治」「同 須原屋茂兵衛」「同 岡田屋嘉七」「同 山城屋佐兵衛」「大阪 敦賀屋久兵衛」とある。序文に「浪華」と見え、出版は最後の「大阪敦賀屋九兵衛」に代表させた。また淡路島や四国、九州の書肆の存在が記載されている文献資料は珍しく、貴重である。

#### 6-8 消息往来 御家

表紙 紙 青色(地模様あり)  
題箋あり「御家 消息往来 全」  
形状 縦24.8cm 横17.4cm  
全 17丁  
出版地 大阪  
資料番号 003942000

表紙裏に「御家 消息往来 全」と振り仮名が「せうそくわうらい」と書名がある。「浪花書房 騰来閣 拝」とあり大阪の出版とした。1丁1行目に「消息往来」振り仮名が「せうそくわうらい」とあり、2行目から本文がはじまる。裏表紙裏に13軒の書肆が列挙されているが最後の「大阪心齋橋通博労町四丁目 中川勘助」が代表する書肆であろう。他の書肆は「東京日本橋通一丁目 北島茂兵衛」「同 通二丁目 稲田佐兵衛」「同 芝太神前 山中市兵衛」「西京三條通堺町 出雲寺文次郎」「名古屋本町七丁目 片野東四郎」「同 四丁目 矢田藤兵衛」「加州金澤保江町 近田太平」「同 上堤町 中村喜平」「播州姫路俵町 伊藤和七郎」「防州山口 宮川臣」「雲州松江魚町 大芦利七」「豊前中津古博多町 梅津壽平」とある。柱書は「一」～「十七」と丁数のみである。

#### 6-9 風月往来 頭書絵抄

表紙 紙 紺色(地模様あり)  
題箋あり「頭書絵抄 風月往来 全」  
形状 縦20.8cm 横15.4cm (小型)  
全 6丁

出版地 不明  
資料番号 003940491

1丁目1行に「風月往来」「ふうげつわうらい」と振り仮名付きで内題があり、2行目から本文である。裏表紙裏に最終行の箇所に「書肆」の記載があるが実際には書肆について記されていない。おそらく続きの裏の丁が存在したと推測できる。現存は最終丁半丁分が見当たらず、いつの頃に裏表紙と合わせられたのであろう。

#### 6-10 庭訓往来捷註

表紙 紙 オレンジ色(地模様あり)  
題箋なし  
形状 縦26.0cm 横18.0cm  
全 107丁(序1丁、本文104丁、目録2丁)  
出版地 江戸  
資料番号 004081303

序文1丁表に「江都駒籠隠士 鳥有齋誌」が記載した文章があり、1丁裏は「凡例」である。2丁表1行目に「庭訓往来捷註」と内題があり、2行目から本文である。上段に注釈が記載された体裁となっている。柱書は「一」～「百四」の丁数のみであるが、最終2丁は「蔵版目録 衆星閣」とあり附録的に綴じられている。105丁表(本文では104丁で柱も百四)に「庭訓往来捷註 平丘先生著 筆者 野品壬生番 片岡長住」と成立過程の記載が確認できる。また「寛政十二庚申 秋七月」と成立時期についても記載がある。出版については続いて「江都書肆 江戸大傳馬町二丁目 大和田安兵衛」「同 麴町平川町二丁目 角丸屋甚助」と確認できる。続いて「庭訓往来 ひらかな附」と出版書物の宣伝がある。そのほかこれから刊行予定の出版物についての宣伝もあり、「古状揃捷注 近刻」「商売往来捷注 近刻」「和漢朗詠捷注 近刻」など計9の文献資料が列挙されている。最後の2丁分は蔵版目録が付されている。「江都書林衆星閣蔵版目録」とあって「麴町平川町二丁目書物問屋角丸屋甚助」が刊行している書物名が43も宣伝されている。たとえば「狂歌百人一首」や「徒然草新註」「武家諸法度」「寺澤風月往来」「七ついろは」「源注餘滴」など当時の出版状況や読者事情を知る貴重な記載と思われる。

#### 6-11 大全消息往来増補

表紙 紙 紺色

題箋あり 「増補 大全消息往来 完」  
 形状 縦17.0cm 横12.4cm  
 全 42丁 (17丁、9丁、16丁)  
 出版地 不明  
 資料番号 003940483

表紙裏に「大全消息往来 附釋講」とある。1丁1行目に「消息往来」とあり、柱書が「消息 一」「消息 十七」が1章分に該当している。18丁表1行目に「続消息往来」とあり、柱書が「続消 一」から「続消 九」との2章の部となる。27丁表1行目に「消息往来講釋」とあり、柱書が「講釋 一」から「講釈 十六」との3章の部となる。本来は3冊別々だったものが合冊され「増補」と称して刊行されたものと推測される。出版地域や作成時期を特定できる記載はなかった。

## 7 まとめにかえて

山口県立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要を報告した。総数は島根県立図書館や鳥取県立図書館、米子市立図書館に比べて最も少ない11本であった。しかし明治期の往来物資料は多数所蔵されており、必ずしも往来物の利活用が少なかったということではないと思われる。

近隣の所蔵資料との状況と比較してみると、目的別分類と出版地域別分類のそれぞれの点において相違していることを確認できた。それぞれの地域における特性の一側面を提示することができたといえるであろう。往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、本稿は、他地域の状況と比較する上で基盤となる調査の一報である。

従来、山陰地域の往来物資料は、『往来物解題辞典』にも記載が少なく、調査の空白地帯であった。残された課題を引き続き検討することとしたい。

## 注

- 1) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第1輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)、拙稿「往来物の「女ことば」について」(『関西文化研究叢書

10巻』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月)、拙稿「近世期における「御所ことば」の記載について—東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月)、拙稿「国語資料としての『都花月名所』—江戸時代後期における漢字表記と振り仮名—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月)、拙稿「『南都名所記』についての一考察—山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第110号、2013年10月)等参照。

- 2) 拙稿「岩手県立図書館所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月)、拙稿「八戸市立図書館 旧遠山家所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010年3月)、拙稿「酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出版地からの分類分析—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月)、拙稿「山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料—目的別分類からの考察—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第108号、2012年10月)、拙稿「山形における江戸時代の書籍流通について—往来物資料の出版地域からの検討—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第109号、2013年3月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察—弘前・酒田・山形との比較検討—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第111号、2014年3月)等参照。
- 3) 拙稿「富山県立公文書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第114号、2015年10月)、拙稿「高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第115号、2016年3月)、拙稿「長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物—横山家文書からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第118号、2017年10月)、拙稿「新潟長岡「斯道館資料」の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第119号、2018年3月)、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—目的別の観点から—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第120号、2018年10月)、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—出版地域別の観点から—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第121号、2019年3月)、拙稿「石川県立図書館所蔵の往来物について—特殊文庫における調査報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第122号、2019年10月)等参照。
- 4) 拙稿「島根県立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第125号、2021年3月)、拙稿「鳥取県立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第126号、2021年10月)、拙稿「米子市立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第127号、2022年3月)、拙稿「島根県立図書館所蔵の貝原益軒著作資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第128号、2022年

10月)等参照。

- 5) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 図版編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 6) 『国書総目録 第1～9巻』(岩波書店、1963～1976年)参照。
- 7) 『古典籍総合目録 第1～3巻』(岩波書店、1990年)参照。

#### 【付記】

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、山口県立図書館の関係者各位に心より感謝申し上げます。

本稿は、科学研究費助成事業 JSPS KAKENHI (基盤研究 (C) 課題番号19K00620) の助成を受けた研究成果の一部です。

(2022.12.12 受理)